

 特別企画

連絡ツールを活用するクラブ

[スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ]

クラブが会員や地域住民に向けて発信を行う際には、できるだけ多くの受信者に見逃されることなく届くこと、そして事務局の作業時間が短縮できるものが好ましいと言えます。

代表的なものとしてまず考えられるのは、メール（メーリングリスト）やホームページ（ウェブサイト）などです。しかし、より多くの人目に触れることが期待できるツールや、年齢層によって伝達効果が異なるツールも多く存在しています。

今月号の特別企画として、各クラブの参考となるような幅広い連絡ツールを活用しているクラブを紹介します。



1 クラブ概要

平成13年に、スポーツ推進委員会と教育委員会が発足のきっかけをつくりました。平成14年に設立準備委員会によってクラブ設立を検討し、設立趣意書に「町民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会を実現する」というテーマと、「スポーツのまち久世町を復活する」と

いう宣言を掲げ、平成15年に母体を持たずにゼロから発足したクラブです。

これからスポーツを始めたいと思っている人や、スポーツをしていない人に向けた33の定期プログラムや各種イベントを行っています。平成27年度にtotoからの助成金が終了し、自主自立に向けて活動をしています。

2 活用している連絡ツールの内容・活用

クラブでは、下表のものを連絡ツールとして活用しています。

■ 利用している連絡ツール

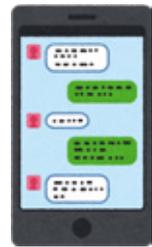
	ケーブルテレビ	ホームページ	LINE@	Twitter	facebook	Sports Manager (ピクロ)
目的	会員の年齢層が幅広いので、それぞれの年代にあわせた情報発信ツールを複数持つ					
内容	市内全域に告知するイベント	<ul style="list-style-type: none"> クラブ紹介 カレンダー プログラム イベント情報 入会案内 など 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの休止・変更 イベント情報 	<ul style="list-style-type: none"> HPへの誘導 プログラムの休止・変更 イベント情報 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の保護者向け プログラムの休止・変更 イベント情報 	
運用	必要時にテレビ局に文章で依頼	情報発信のメイン	主にタイムラインを使用	Twitterとfacebookを連動情報の第一報として発信		連絡網サービス利用
経費	無料	無料の範囲内で利用		無料		初期費用必要
利点	SNSを利用しない方への情報発信	決定事項をすぐに発信できる スマートフォンを利用すればどこにいても発信できる				情報発信後に保護者の確認状況を把握できる
更新頻度	—	必要時に随時				
更新者	—	事務局1名が情報を一本化して更新 ※各プログラム内でスタッフから電話、メール、LINEなどで連絡事項を流すこともあり。会員、会員問わず周知する内容は、クラブから発信。会員内だけの連絡についてはスタッフが行うこともあり。				
負担感	なし	先に分かっていることはまとめて更新。天候に左右される屋外のプログラムの連絡は時間を気にしながらの情報発信となるが、一斉に通知できるので負担感はない。				

※急な休み(例: 気象の警報が出て中止にするなど)の時は、人数が10数名のプログラムについてはスタッフと事務局とで手分けをして電話連絡をするときもあり。

上記の連絡ツールを活用するにあたっては、個人情報の扱い等に注意しています。そのため、イベント報告やPRの際に、画像や個人名を出すことがあるので入会受付時に掲載の可否を確認するようにしています。また、全員に情報が行きわたっていると過信せず、各プログラムの開催時にも情報が届いているか確認することを心がけています。なお、登録当初は無料であっても料金プ

ランが途中で変更になり、容量の制限等が設定されることがあるので、使用にあたっては最新の使用条件を確認するようにしています。

その他、イベントの開催要項等にも、「警報発表時の開催有無の通知について」という項目を設け、QRコードや検索ワードを掲載し、参加者が開催状況を簡単に確認できるような取組もしています。

<p>ホームページ</p>   <p>http://sporekuse-maniwa.jimdo.com/</p>	<p>LINE@</p>  	<p>Twitter</p>   <p>https://twitter.com/sporekuse</p>	<p>facebook</p>   <p>https://www.facebook.com/sporekuse/</p>
---	---	--	---

3 ケーブルテレビ「真庭いきいきテレビ」との連携

ケーブルテレビ：真庭いきいきテレビ

クラブ設立準備当時の地区のケーブルテレビ局「KHK」は久世町が運営していました。旧久世町教育委員会が主導となり、クラブ設立を検討したことから、KHKのバックアップをいただくことができ、クラブにとって強い味方となりました。

平成14年2月、設立準備委員会では総合型地域スポーツクラブのPR番組を作成しました。設立準備委員会とKHKのディレクターとで内容を協議し、番組の作成をしました。準備委員自らが出演し、「総合型クラブとは?」「久世町がめざすクラブは?」「クラブに入ったらどんな良いことがある?」といった内容の番組を放送したり、会員募集の時期にはコマーシャルも放送しました。

クラブ発足以降は、クラブのプログラム紹介番組、10周年記念事業の事前PR番組、敬老会特集でクラブ会員の最高齢の方がクラブで活動している様子など、特集番組として制作していただきました。

久世町が町村合併により真庭市となり、テレビ局が「KHK」から「真庭いきいきテレビ

(MIT)」となった後も、地域のニュースを放送している夕方の情報番組「ほっとまにチャン」のお知らせコーナーにおいて、文字と音声によるイベントの告知を行っています。

その他、クラブのイベントや、Jr綱引スクールが全国大会に出場する激励会の様子などをニュース番組の中で放送しているので、クラブのPRにもつながっています。

また、MITの企画としてノルディックウォーキングの体験番組を作成する際には、当クラブのウォーキングサークル会員がモニターとなって出演をするなど連携もしています。

このように、テレビ局側から「こういう番組を作りたい」という企画を受ける形(数分の番組)と、クラブ側から文章を渡してイベントの告知などを放送してもらう形(ニュースの中のお知らせコーナー)で連携をしています。真庭市のスポーツ振興、地域活性化につながるものとして協力していただいています。

(スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ)
クラブマネジャー 前田 江美

解説

ケーブルテレビ・地域密着チャンネルとは

ケーブルテレビとは、サービスを提供する地域に光ファイバーケーブルや同軸ケーブルを敷設して、ケーブルテレビ局のセンターと地域内の一軒一軒の家庭を1本のケーブルで結び、放送サービスと通信サービス等、多様なサービスを提供しているものです。

また、特定の地域を対象にサービスを提供しているため、地域に密着した内容を放送するチャンネル(コミュニティチャンネル)を持っているところも多くあります。

スポーツ・レクリエーション倶楽部くせの例を参考に、ケーブルテレビ局(運営会社)と連携し、クラブの魅力をアピールするような企画を持ち込んでみてはいかがでしょうか。



一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟のホームページで、地域のケーブルテレビ事業者を検索することができます。

http://asp.netmap.jp/jcta/search_pref.html

*一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟ホームページより一部引用

クラブプロフィール

設立年月日：平成15年5月11日

所在地：岡山県真庭市久世地区

運営：会員数363名(平成28年6月現在)、
予算規模724万円(平成28年度)

特徴：クラブ発足から13年が経過し、近年は事業の柱となる「運動・スポーツ実施機会の定着」「スポーツを通しての世代間交流」「高齢者の居場所づくり」「地域の子どもの体力向上」などの運動・スポーツ活動の他に「飲み歩き食べ歩きイベント」や「自主防災組織設立推進事業」など地域で必要とされることに挑戦し、スポーツだけではなく地域密着の運営体制に取り組んでいる。

■連絡先

郵便番号	719-3201
住所	岡山県真庭市久世266-2 久世体育館内
TEL	0867-42-5430
FAX	0867-45-7557
Eメール	sporekuse2003@blue.ocn.ne.jp
ホームページ	http://sporekuse-maniwa.jimdo.com/